NIE実践報告

1．タイトル：☆「天声人語」で読解力をつける(5教科の中でいかに継続的に新聞を活用するか)

2．学校名

兵庫県神戸市立布引中学校

3．実践者名（代表者名）

溝下　尚子 (3年 国語)

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　93人(3クラス)

6．単元（本時の学習課題）名

国語科長文読解練習(23時間)

7．目標（狙い）

・天声人語を通じて新聞に興味を持ち、社会に対する視野を広げる。
・天声人語を通して読み取る力をつけ、内容を簡潔にまとめる力と表現力を高める。

8．評価の視点

・書かれている内容に興味を持ち自分なりに考えを書くことができたか
・文章をしっかりと読み取り、内容の要点を簡潔にまとめることができたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

11月より入試に向けて生徒の課題である読解力を高めることを目的に週3時間の授業を漢字の書き取り練習と交互で実施、3月までに約23時間実施した。1度の授業で使用する時間は15分

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・天声人語を切り抜いたプリントを配布
　→プリントには段落ごとに要約したことを記入する欄と内容を読んで感想を書く欄がもうけられている
・天声人語を読む(3分程度)
・天声人語の内容を段落ごとに要約(5分)→答え合わせ
・天声人語の感想を記入(3分)
・時間に余裕のある者は文章の中で筆者が言いたいところや重要と感じた所に線を入れる
・要約の答え合わせをする(2分程度)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

文章を苦手にしている生徒もテレビなどのニュースで報道されたことをテーマにしている内容が多いため、社会への興味関心が高まると同時に、継続して実施することで生徒の読解力の向上に役立った。

12．成果と課題

これまでにも不定期に新聞を利用した授業は社会や総合などで取り組まれてきたが、定期的に新聞を活用して学力の向上を図ることは特に5教科の中では難しかった。最初は書くことが苦手で読むことで精一杯な生徒も継続していくことで少しずつ書けるようになり読解力や表現力がついていった。今後は新聞の生徒への効果的な利用方法について職員研修などを通じて検討し、いかに授業で新聞を利用していくかが課題である。